



楽しくいきいきと… ～「腹話術の会★きずな」の取組から～



腹話術を観ていると、自然と笑みがもれてきます。「腹話術の会★きずな」は腹話術を使い、東北の被災地へ行き被災者を励ましています。また、全国の保育園や小学校、図書館、福祉施設、病院、高齢者施設、お祭り、各種イベントなどで幅広く活動も続けています。腹話術を生きがいの一つにして活動されている会員の練習を取りながら、代表であり指導者でもある城谷護（しろたにまもる）さんにお話を伺いました。

「腹話術の会★きずな」



「腹話術の会★きずな」は、2006年に腹話術の好きな人たちが集まって始まりました。会の代表であり指導者でもある城谷さんは、「好きな人たちが集まっているからこそ、楽しくいきいきと活動することができる。だから楽しくいきいきとを会のモットーにしている」と話します。定期的に発表している「腹話術のつどい」は、今年8回目と定着してきています。「つどいは、腹話術を中心に手品もあり、会員の得意なもので発表する」と声を弾ませながら話します。練習は月1回ですが、城谷さんの豊かな経験を生かし、会員の持ち味を引き出しています。その城谷さんの熱意を感じた会員は、「観てくれる人たちを喜ばせたい、励ましたい」と笑みを浮かべながら話します。

腹話術の会は、全国各地で活動しています。東北の被災地で「一日で一年分笑ったよ」、「長生きして良かった」等の声を聞いて、逆に励まされたといいます。



全国から会員が集まり、活動の輪が広がっている

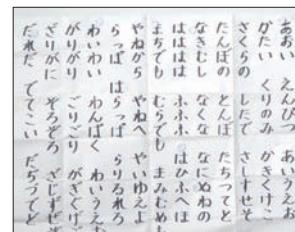
練習は、川崎市内の公共施設を使い行っています。取材時に茨城県日立市から来た新会員が紹介されてい



練習中

ました。会員は、北海道から九州まで1都1道2府12県に広がり、およそ80名になるといいます。会員の中には、「腹話術の会★きずな」を観て会員になったという小学生がいて、「年齢層が10代から70代まで幅広いこともこの会の特徴の一つになっている」とのことです。

練習は、会員の主導で行われています。和やかな雰囲気の中にも、緊張感が漂います。基本練習の一つである群読や準備運動する会員の表情は、真剣そのものです。



地道な活動が認められて

「腹話術の会★きずな」は、これまでの功績が認められ、2007年に神奈川新聞社「神奈川地域社会事業賞」を受賞しましたが、城谷さんは、腹話術の担い手が少なくなっていることを心配し、「一人でも多くの腹話術師を育て、腹話術の楽しさを伝えていくことが私の役割です」といいます。また、病院で演じた時の話も聞かせてくれました。

「辛い状況なのに、大きな口を開けて笑う患者さんの様子を見ていると逆に励まされ、改めて腹話術の魅力に気づかされた会員もいた」と頷きながら話してくれました。そして、腹話術師にとって人形は、大切なパートナーです。

「だからこそ、人形に腹話術師の気持ちを注ぐことが観ている人を楽しませ、励ますことに繋がると思う。そのことを伝えながら指導している」といいます。

「会員の中には、家族の一人として家でも会話している」と聞き、とても温かく微笑ましい様子が目に浮かんでくるようでした。そこで城谷さんのパートナーであるゴローちゃんについて聞くと、「ゴローちゃんは、ひょうきんもので時々悪い言葉を遣うこともあるが憎めないんだ」と目を細めながら話す城谷さんの表情が、とても印象に残りました。

「日本を元気にさせたい」の強い思い。。

「腹話術の会★きずな」は、経験豊かな人たちの集まりです。その経験を腹話術に生かしながら、互いに技能を磨き合う姿に生涯学習の一端を感じます。会員は、「腹話術で日本を元気にさせていきたい」と強い思いをもち、練習しています。小学校の授業場面で腹話術を使い、子どもの反応を上手に引き出していました。笑いの絶えない授業は、瞬く間に過ぎていった感じがしました。終了後に子どもたちから拍手喝采と握手攻めにあう光景（シーン）を見ていると、城谷さんの腹話術師育成の夢が、着実に実現してきていることを感じます。

■問合せ：城谷 護 TEL 044-544-3737